

## 平成30年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

一般学科 教授 鈴木基伸

鈴木基伸教授は、平成11年4月に着任して以来、次のような活動実績を残してきた。

教育実践研究では、従来の文法訳読式の英語指導法に改善を加え、学生の受信・発信力を向上させる指導法と教材開発に取り組んできた。「サジェストペディア」を、壹岐節子氏（産能短期大学名誉教授）に、「受信・発信型英語指導法」を、中西哲彦氏（日本福祉大学前准教授）に、「オーラル・インタープリテーション」を、近江誠氏（南山短期大学名誉教授）に師事した。三氏との個別の共同研究で得られた知見を踏まえ、授業準備を行い、毎回の授業に臨んできた。その成果は、授業評価アンケートで一定の評価を得てきた。さらに個別指導をした学生を、平成21年度第3回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストで、全国2位に、平成27年度第21回英語オーラルインタープレゼンテーションコンテストで優勝に導いたこと等により、極めて高い指導能力を示した。

研究面においては、中部地区英語教育学会と日英英語教育学会の運営委員・会計委員、日本サジェストペディア学会の理事・副会長の役職を歴任し、英語教育関係の諸学会の運営に携わりつつ、精力的に学会発表を行うとともに、投稿論文の査読も担当した。主たる研究分野は、英語指導法であり、上述の指導法を踏まえた授業実践を6冊の著書（共著）と約20編の論文に纏めた。また、平成22年度は、中学と高専の連携の重要性を認識し、東海市立名和中学校の協力を得て、日常の教育活動を半年間継続的に観察するとともに、英語教員とのティーム・ティーチングを実践した。

学校運営においては、寮監及び寮務主事補を経て、平成23年度より4年間、寮務主事として、創志寮創設による600名規模の寮運営の基盤づくりを、寮務関係の教職員と共に取り組んだ。また、学生相談室長として、平成20年度まで学生委員会に所属していた学生相談室を独立した部署にすることを提案し、今日の形態とすることに貢献した。また、全国の高専の学生相談室長が出席する全国メンタルヘルス研修会の分科会の主査や副主査を各2回担当した。さらに平成28年度の障害者差別解消法の施行に伴い、学生相談室を学生サポート室に組織改編する際の基盤づくりを、関係の教職員と取り組み、障害学生支援の体制作りの一翼を担った。

課外活動面では、インターアクトクラブの顧問として、平成17年度のオーストラリア研修の団長として、本校を含む県下の高等学校のインターアクトクラブの代表学生・生徒を引率し、日豪親善を行った。また、平成18年度に、豊田市民文化会館で行われた国際ロータリー2760地区インターアクトクラブ協議会の実行委員長として、関係スタッフとともに、その運営にあたり、県下のインターアクトクラブ員、および、ロータリアンとの交流を成功裏に終えることができた。

以上の通り、鈴木基伸教授は、教育実践研究、学校運営、課外活動面での活動に顕著な功績があるので顕彰する。

## 平成30年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

電気・電子システム工学科 准教授 光本真一

光本真一准教授は、2011年4月に宇部工業高等専門学校から転任し、本校に所属してから次のような活動を行ってきた。転任初年度から学生主事補を4年間務めた。このうち2年間はキャリア教育支援室員も務めた。その後、4年指導教員、5年指導教員を2年連続で務めて、2018年度は、3年連続となる5年指導教員と教務主事補を兼任しており、学生教育指導および教務入試関連の活動に寄与することで本校の学校運営活動に貢献している。

授業・教育に関しては、電力工学および電気回路の講義を担当している。特に電気回路については、2014年に共著として電気書院より出版された「基礎電気回路ノート」を講義で用いている。授業は教科書と同じ内容の事項に沿って行われるため、学生が復習しやすいように配慮されている。「基礎電気回路ノート」は他高専でも使用されており、広い意味で高専教育に貢献している。また学生による授業アンケートでも高い評価を得ており、熱心な授業・教育活動は学科卒業生の高い進学率を支えている。

同准教授は、電力工学に関連した電気絶縁技術の研究に従事していることから、電気学会の役員等もこれまで長年務めてきた。2011年以降においては、電気学会東海支部活動推進員および協議員に任命され、本校であった電気学会東海支部学術講演会の開催等に尽力してきた。さらに、電気学会全国大会運営委員や電気学会東海支部連合大会での座長も務めた。2015-2016年にはIEEE名古屋支部の理事を務め、IEEEから「Recognition for achieving outstanding member recruitment and retention performance in the Nagoya Section」の顕彰を受けた。さらに2015年、2018年の電気学会東海支部連合大会において、同准教授研究室所属の卒研究生が研究内容を口頭発表することに対しても支援してきた。

同准教授は、他大学や他高専とも共同研究を行っており、研究で得られた成果を学会誌あるいは国際会議へ毎年発表するなど、研究活動にも積極的に取り組んでいる。この研究活動が実を結び、2018年科学研究費補助金 基盤研究Cの研究代表者として採択されたことは本校の評価を高めたとともに、運営費交付金獲得実績に貢献した。

2013年からは、とよたイノベーションセンター主催の製造技術者育成プログラムの講師を務め、地域の社会人教育にも貢献している。課外活動では、テニス部の副部長教員およびジャグリング部の部長教員を担当している。特にジャグリング部においては、ジャグリング同好会設立時から学生を支援している。ジャグリング部昇格後は、豊田市施設や福祉施設、地域の子供会行事にジャグリング部員を派遣する活動を支援している。

以上のとおり、光本真一准教授は、学校運営、教育、研究、地域貢献および課外活動指導といった面で顕著な功績があるので顕彰する。

森上伸也准教授は平成26年4月に着任して以来、教育、研究面および学校運営において次のような活動実績を残してきた。

教育活動では専門分野の授業において教科書に補足して自作の教材資料を作成し、社会や時代の変化、要請に合わせた講義を行っている。ICT利用を見据えた動画資料の作成を行い、試験的に配信を行った。またクラウドシステムを利用した課題受け取りシステムの構築に積極的に取り組んでいる。平成28年度に実施された授業改善のためのアンケートでは、同准教授が担当する5科目は前・後学期を通して建築学科の中で最も高い評価を得た。また、進路指導面では出身地の人脈を活かして、これまでになかった校外実習先や就職先として関東地方に本社を置く企業の開拓に取り組んでいる。現在までに新たに校外実習3社、就職1社を開拓した。

課外活動では平成26年度から硬式野球部の副部長を務めている。平成28年度には全国高等専門学校体育大会において監督としてチームを準優勝に導いた。その成績について豊田市教育委員会から同市における教育の発展に貢献したとして表彰を受けた。また、梅坪地区コミュニティ会議まちづくり委員会主催の「避難所体験ナイト」において、建築学科の学生と被災時に役立つ知識およびスキルに関するブース展示を行った。簡易間仕切りの実物を製作し、ポスターによるプレゼンテーションを行い、学生への実践的教育効果の向上にも取り組んでいる。今年度は主催側として活動している。

研究活動では平成26年に日本建築学会学術講演会における「建築環境工学部門 若手優秀発表」を受賞した。また、その内容について平成29年に風工学分野に関する国際ワークショップに招待され講演を行った。さらに平成28年には温熱環境分野に関する国際会議の実行委員や、日本建築学会東海支部環境工学委員会および傘下のワーキングや小委員会で活動を行っており、国内外における一流の研究者との日常的な交流によって、国際的研究センスの向上に努めている。外部資金では平成27年から29年にかけて科学研究費補助金(若手研究B)や、東京工芸大学における共同研究に応募して採択されている。共同研究では毎年、研究集会を主催し、学生が発表する機会を設けることで、学生の研究力の向上にも取り組んでいる。また、民間企業の株式会社LIXILと2014年度から7年間の中長期的な共同研究を実施中で、地域に密着した研究にも積極的に取り組んでおり、研究活動は多岐にわたって繰り広げられている。

学校運営では、平成27年度から学生主事補を務め、交通安全に関する教育を担当している。平成28年度には交通安全教育合宿研修を見直し、日帰りで同等以上の効果が得られる研修としたことで、学生や保護者の不満を解消した。また、平成30年には改修のあった学生寮について寮務主事指導のもと利用者の満足度について調査を行い、今後の参考資料ならびに数少ない学生寮の調査結果資料として取り纏めた。内容は日本建築学会東海支部研究集会で発表する予定である。

以上の通り、森上伸也准教授は教育・課外活動、研究活動ならびに学校運営における活動に顕著な功績があるので顕彰する。